28.1.18

靴

私は路をひろって歩いてゆく
破れた靴に水をしみこませまいとして
歩いてゆく
私は貧しい郵便局の前の電の火鉢に靴をぬいで
破れた靴足袋を乾かし[illegible]
ている
ラジオがものうくラプソディインブルーをひびかせ
友は[illegible]寮さんよそよそしい
ページをくれる男のことをいう

夜の街には
気候のよう
ぬかるみを
かたつむり
ネオンが淫靡
み
その上を
定食を求めよ
気らしい紙
男中をおしこんでく

私は路をひろって歩いてゆく
片脇の膝を注意深く水たまりの縁を目んおりん
歩いてゆく
つましい銀行の女事務員の玄関で靴足をぬぐ立つ
冷い靴です
彼女の眼は資本論の頁を折りながら
かたわらの子供の布団を掛け直す
私は路をひろって歩いてゆく
ぬかるみなどひどくなって街はたえ
広い軍隊生活やのような道路がぬかるんでいる
注意しておす靴はしばらく水をおす
夜は私を包む
私の足音は水にぬれ、それはやわらかい呼吸をもつ
ふとふりかえると私を追ってくる足音がする
それは私のお右左からまつわりついてくる
それはむしの足音
それは血と肉の流れてくるふしの音
それは崩壊をのりこえ前進を踏み
どこかえのがれゆく足音
私はそれを包まれて進む
誰が破れた靴をはかぬものがあろう
ヨレヨレの靴、尖ったハイヒール、それらはすりへったもの
破れた靴、裸のはしる音は私と同じ方向へ進む
火をもとめてさまよう
道の彼方に立ちあがり
みじめの灯が窓ガラスを照らしている
私はけんめいに深い霧の中へ歩みゆく